

令和6年度 豊中市総合計画審議会 第3回会議 議事要旨

【日 時】令和6年(2024年)12月3日(火)18時30分～20時00分

【場 所】第二庁舎3階大会議室、ZoomによるWEB会議

【出席者】石川委員、大野委員(オンライン)、川久保委員、岸本委員、佐藤委員(オンライン)、
高橋委員、田中委員(オンライン)、野崎委員(オンライン)、久委員、坂東委員、元木委員

【欠席者】吉村委員

【事務局】豊床都市経営部長

都市経営部経営戦略課：森田、田中、高橋、山田、富永、松田

【傍 聴】2名

【案 件】1. 第1回及び第2回総合計画審議会の振り返り

2. 2024年度(2023年度実施分)政策評価結果の答申(案)について

3. デジタル田園都市国家構想の実現に向けた豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略(デ
ジ田総合戦略)の進捗状況について(ご報告)

4. その他

【資 料】

-----案件1に関する資料-----

資料1 第1回及び第2回審議会での主なご意見(施策順)

資料2 施策間の連携について(例)

-----案件2に関する資料-----

資料3 第1回及び第2回審議会での主なご意見(答申項目順)

資料4 2024年度(2023年度実施分)政策評価結果について(答申(案))

資料5 2024年度(2023年度実施分)政策評価結果(全体版)

資料6 2024年度(2023年度実施分)政策評価結果(概要版)

-----案件3に関する資料-----

資料7 2024年度デジ田総合戦略の進捗状況(概要)

資料8 2024年度デジ田総合戦略の進捗状況の指標について

資料9 転出入アンケート結果報告

-----参考資料-----

参考1 第4次総合計画後期基本計画(全体版)

参考2 第4次総合計画後期基本計画行政評価指針

参考3 2024年度(2023年度実施分)政策評価結果 用語集

■開会

■委員会について説明、成立要件の確認、会議の公開について確認

事務局

会議の成立要件は、審議会規則第7条第2項のとおり、委員の過半数の出席が必要であります。本日は委員総数11名の出席がありますので、成立要件を満たしております。また本日、傍聴者は2名です。

■資料の確認

■「1. 第1回及び第2回総合計画審議会の振り返り」

会長

「案件1. 第1回及び第2回総合計画審議会の振り返り」について、事務局からご説明をお願いします。

事務局

（【資料1】第1回及び第2回審議会での主なご意見(施策順)および【資料2】施策間の連携について(例)について説明)

会長

ありがとうございます。資料1は皆さま方から第1回、第2回審議会でもいただいたご意見を施策順に並べ替えています。資料1についてご自身の発言の趣旨と異なる場合や補足があればご意見いただければと思います。

委員

意義なし

会長

ありがとうございます。資料2の施策間の連携については、次期総合計画を作るときはもう少し明示した方がいいのでは、と事務局とも話をしております。委員の皆様にご意見賜りながら、よりわかりやすい計画にしていくため、次回以降の計画づくりが始まった段階で議論をさせていただければと思っております。

続きまして、今回の政策評価結果の答申案について、事務局からご説明をお願いいたします。

■「2. 2024年度(2023年度実施分)政策評価結果の答申(案)について」

事務局

（【資料3】第1回及び第2回審議会での主なご意見(答申項目順)、【資料4】2024年度(2023年度実施分)政策評価結果について(答申(案))についてご説明)

会長

まず、今回の答申作成の流れについて説明させていただきます。このあと、皆様から答申（案）について、ご意見をいただきます。いただいたご意見をふまえて、事務局で答申（案）を修正し、修正案を私の方で確認した上で、答申を確定させたいと思います。本来なら、委員の皆さまにご確認いただき、答申書をまとめるべきですが、時間の関係上、今回の意見を会長一任でまとめさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

委員

意義なし

会長

それでは、それでは、答申（案）について、ご意見をいただければと思っております。

委員

資料４の１ページ目で「令和４年度（２０２３年度）」となっており、年度誤りではないかと思うので修正いただければと思います。

委員

内容には異議はないのですが、２点表現が気になるところがありました。

１点目として、資料４の２ページの項目１で「～つながりが分かるよう記載するとともに、進捗状況が分かるよう記載すること」という記載が重複表現になっているのが気になりました。取り組みや成果、課題、今後の方向性のつながりと進捗状況を明記する、という点が伝わるように表現を少し修正いただく方がわかりやすいと思います。

２点目として、資料４の２ページ目、３ページ目で「分かる」と「わかる」で漢字とひらがなが混在している箇所があるので、修正いただければと思います。

会長

同じ文章が２回続く場合は前の部分はカットするなど、よりシンプルな表現にしたいと思います。

委員

資料４の項目４で「成果は、アンケート結果や現場でのヒアリングによる市民の声等の具体的なエビデンスに基づき評価結果を記載されたい。」との記載ですが、全てにおいてエビデンスに基づくことは難しいので、「可能な限り」や「出来得る限り」などの表現を加えてはいかがでしょうか。

会長

評価するにあたっては何か根拠があると思うので、定量的ではなくて定性的なものでもいいと思います。「可能な限り」と追記するというので、ご異議なければ修正したいと思います。

委員

資料 4 の 2 ページ目、3 ページ目では全てが「～たい。」で終わっているのですが、項目 3 だけ「～と考える。」となっていますので、末尾は合わせていただく方が良いかと思います。

会長

ありがとうございます。いただいたご意見を含め、答申案としてまとめていきたいと思います。

次に、「案件 3. デジタル田園都市国家構想の実現に向けた豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について」、事務局からご報告をお願いします。

■「3. デジタル田園都市国家構想の実現に向けた豊中市まち・ひと・しごと創生総合戦略（デジ田総合戦略）の進捗状況について（ご報告）」

事務局

（【資料 7】2024 年度デジ田総合戦略の進捗状況（概要）、【資料 9】転出入アンケート結果報告についてご説明）

会長

「デジ田総合戦略」は、昨年度までは「まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会」で審議していましたが、今年度より総合計画審議会と統合しています。意見交換の前に、昨年度まで「まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会」の会長をされていた委員から、コメントございましたらよろしくお願いします。

委員

現在は「デジ田総合戦略」という名前がついておりますが、2014 年 12 月に国が「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。本戦略の目的は、少子高齢化への対応、将来的な人口減少に歯止めをかけることで「まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会」は、その目的達成に向けた進捗状況について検証する委員会でした。

少子高齢化への対応、将来的な人口減少に歯止めをかけることを目的に議論していましたので、面白い議論が進んだのではないかと思います。

例えば、資料 9「転出入アンケート結果報告」からもおわかりいただけますように、転入のきっかけは、いわゆる自己都合というよりも、転勤の方が多く、豊中という名前を知らない、阪急沿線という意識がない、北摂という名を知らない、という場合でも、何らかの形で豊中市へ誘導できることがわかります。また、豊中市では、魅力の発信や都市ブランド定着に向けた取組みについて審議する「豊中ブランド戦略審議会」がありますが、社会人口増については、転勤をきっかけに転入される方が多いことから、首都圏から大阪へ転勤される方へのプロモーション等を行うとよいのではないかと、という議論などもありました。

そういった様々な議論の中で、「まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会」では、社会人口増をめざすことは転入者を近隣市と取り合う、いわゆるゼロサムゲームであり、自然人口増に向けても考えなければならないのではないかと指摘もありました。

市として、「子育てしやすさ NO. 1」を掲げ、子育て、教育に力をかけていくことは、ゼロサムゲームに参加するのではなく、人口減少に歯止めをかけるための地に足をつけた政策に繋がっていく

のではないかと思います。人口を一定維持するということは、市として様々な政策を展開するにあたって重要なことであり、この教育、子育て、このあたりのところを重点に置きながらも、豊中のブランド価値ということをしっかりと伝えていくというようなことが、本戦略の達成につながっていくのではないかと思います。

会長

ありがとうございます。それでは委員間で意見交換、あるいは事務局に対してのご質問等はございませんでしょうか。

委員

転入者アンケート回答者へのマチカネポイント付与は昨年度までの「まち・ひと・しごと創生総合戦略委員会」の中で出たアイデアで、実際にポイント付与を実現されていることや、転入者アンケートを今も継続的に取られていることは素晴らしいと思いました。

2点お話しさせてください。1点目は資料7「2024年度デジ田総合戦略の進捗状況（概要）」についてです。4ページで南部地域中心に人口のお話をご説明いただきましたが、北東部の人口動態が気になりました。グラフで見ると、全体的な社会減の中、北東部は社会増減数が最も低く、未就学児人口増減率も減少していますが、7歳～15歳人口増減では最も人口増減率が高くなっています。そのため、北東部では7歳～15歳の子どもがいる世帯が増えたのか、と想像しましたが、資料からは実情を読み取ることができませんでした。実際に地域で何が起こっているのかを見ていくために、よりデータを細分化し、地域別、社会増減別、自然増減別などで分析されてはいかがでしょうか。

2点目は資料9「転出入アンケート結果報告」についてです。回答数が今回伸びているとはいえ、政策提言につなげるには母数が足りないという状況だと思いますので、転出入の全体の動きは国勢調査で、ミクロな動きはアンケートで見るなどの手法を取られてはどうかと思います。

また、若い世代の回答率が高いというご説明でしたが、5ページの「転出者の居住年数」の回答の2位が「1年以上3年未満」で、その次が「20年以上」なので、転出者の中で「豊中で生まれ育った人」の割合は非常に多いのではないかと思います。その一方で、7ページ「転入にあたっての情報収集」では「以前豊中に住んでいた」という回答が3位であることを合わせると、豊中で生まれ育った人は成長して転出しても「やっぱり豊中がいいな」と思って戻ってきているのでは、という仮説が立てられます。

都市部では、就職を機に市外に出てしまう人が多く、戻ってくる人が少ないという課題があります。しかし、豊中の場合は、「やっぱり自分が育った町で子育てするのがよかった」と実感して戻ってくる方もいらっしゃるが多い、ということであれば都市間で比較するなど、分析を深めていくことで、豊中市の子育て重視の政策の効果や、豊中市の政策の市内外におけるPRが上手くできているということの裏付けにもなります。加えて、今後の総合計画策定や市の政策全体をより良いものにしていくことにもつながると思います。

会長

居住履歴というのはデータがとりづらいのですが、総合戦略を進めるうえで、より精緻に把握できると、面白いだろうと思います。

1点目の北東部というのは千里ニュータウンや緑丘の辺りを指しているのでしょうか。

事務局

市の北東部は千里中央付近となります。北東部の人口動態について、把握している状況としては、千里中央駅周辺の団地の建替えがありました。これにより居住者の一時的な転居や、住民の入れ替わりなどが生じたことが北東部の人口の動きの主要因と考えています。これにより 7 歳～15 歳のいわゆる就学世代の人口増減率にも影響が出たのでは、と仮説を立てております。

会長

北東部は、7～15 歳の人口増加率は高くなっていますが、住宅価格からすると、子育て世帯が大幅に増えているとは考えにくいので、大規模住宅の建替えが影響していると推測していました。人口増という観点では住宅政策は非常に重要ですが、住宅の販売価格帯などの民間の動きはそこまでコントロールできないので難しいところですね。

南部は北東部とは逆に、7 歳～15 歳の人口増加率が低く、就学とともに他の地域に引っ越しされているとも考えられるので、庄内さくら学園や中高一貫校の魅力がどれだけ地域への定着に繋がるのかはこれからの勝負、というようには読み取ることもできます。

委員

全体的な感想として、この総合戦略の K G I と K P I は、総合計画よりも非常にわかりやすく設定されていると思いました。K G I は人口に関連した 3 つの数値に絞り込まれており、K P I も「住み続けたいと思っている市民の割合」や「合計特殊出生率の維持」、「出生数の増加」など、ゴールとの関係性が明確だからです。

今回ご報告いただいた資料 7「2024 年度デジ田総合戦略の進捗状況（概要）」によると、K G I の当初値は 2020 年が推計人口 40 万人で、目標値は 40 万人以上と設定されています。しかし、令和 5 年度では 40 万人を下回っており、現在の社会増減や自然増減のデータからすると死亡者数が出生者数を大幅に上回る状況は今後も続く傾向なので、このままでは令和 9 年段階で目標未達となることが予測されます。

K G I の達成に向けてどの K P I の値が変化すると、K G I にどのように影響するのかを認識し、テコ入れすることが必要だと思います。

例えば、資料 8「2024 年度デジ田総合戦略の進捗状況の指標について」によると、目標（1）の K P I である「子育てがしやすいまちであると思う市民の割合」は向上しているので、「子育てしやすい N0.1」への市民の期待値が増加している、と考えると非常に良い進捗だと思います。しかし、同じく目標（1）の K P I である「合計特殊出生率」は下がっているので、子どもを持ちたいと思っている方々に対し、さらなるサポートを検討することも打ち手として重要だと思います。

また、目標（3）の「住み続けたいと思っている市民の割合（対象：18～49 歳）」は当初値の 84.8% を維持していますが、逆に捉えると 15% ぐらいは「住み続けたくないと思っている」とも言えますので、この方たちに理由をお聞きすると改善点も見えてくるかと思います。資料 9「転出入アンケート結果報告」の 9 ページに「豊中市のまちづくりに期待すること」という転入時点で期待することについての設問がありますが、「実際に転入してみてどうだったか」といった項目も入れてもいいかもしれません。当初の期待値に対して実際の結果を聞くと、今後何をすべきかより明らかになると思います。

今回の「転出入アンケート結果報告」は、母数はもう少し欲しいですが、これだけのデータをこのレベルで分析できているのは非常に面白いと思いながら拝見しました。回答結果では、豊中市に対する不満は少なく、魅力を感じていると読み取れますが、限られた十何%未満の不満にも目を向けることによって、次のアクションが見えてくるのではと思います。

会長

アンケートの設問が、KGI達成に向けた変数のパラメータと連動していると進捗確認や要因分析に役立つのでは、というご意見でした。

議論にはありませんでしたが、長年住んでいた方が転居する場合は地域コミュニティや人間関係に起因することもあり得ますので、きめ細やかな設問をアンケートの中に組み込むと分析にも役立つと思います。

委員

転出入アンケートの回答母数が少ないことが気になりました。転出者は外に出て行くため、回答母数を増やすのは難しいのではないかと推察しますが、転入者に関しては、市民全体へのアンケートの中で、過去にどこに何年住んで、いつ転入してきたのかなどの履歴を含めて聞くと、数と質の両方が取れるのではないかと思います。

また、転入者の前居住地を把握することで、豊中市への転入者が多い自治体にターゲットを絞って市のPRをするなどの施策を打つこともできるのではないかと思います。

資料9「転出入アンケート結果報告」の7ページによると「転入にあたっての情報収集」の回答1位は市ホームページとので、市ホームページは非常に重要なチャネルになっていることがわかります。転入者向けに、企業のランディングページのように個々の情報をわかりやすく示した、ウェブサイトの作成もご検討されるといいのではないかと思います。

委員

各企業でもデジタルマーケティングは非常に苦勞されている中、「転入にあたっての情報収集」で市のホームページが一番見られているという結果には疑問があります。アンケート回答の大多数を占めている20～30代の方はデジタルで情報を入手されているはずなので、該当する選択肢がなかったために市ホームページを選んだ可能性もあるのではないのでしょうか。回答層を考慮して選択肢を見直すこともご検討ください。

会長

市民全体のアンケートについては、今後の次期総合計画策定時の市民意識調査もあり、この審議会の所掌かと思います。

委員のご意見は、アンケートで市民の方により詳しくお聞きすることで、ペルソナ分析ができるだけの情報を得ることができ、色んなことが見えてくるのでは、というご意見でした。

例えば、資料9の13ページ「主な転出先」を見ると、豊中市からの転出先として一番多いのが大阪市ですが、交通利便性に魅力を感じて豊中市に転入してきた方は、大阪市の方がより交通利便性が高いので再度異動した、ということもあるかもしれません。こういった推測の中で分析をかけ、ペルソナごとの異動パターンを見つけるなど、様々なことができると思います。逆に、転出先の3

位は吹田市ですが、豊中市と交通利便性や住環境はあまり変わらないのに転出先に選ばれているのは何故かというのは個人的に気になるところです。

事務局

吹田市は豊中市と比較して住宅供給量が多いので、豊中市で賃貸にお住まいだった方が、新たにご自宅を購入されることをきっかけに吹田市に転出される、といったパターンがあるのではと推測しています。

会長

逆に言うと、もっと豊中市でも新規住宅を供給すれば良い、ということですね。

事務局

豊中市では新たに住宅を建てることが可能な土地が少ないので、そこが吹田市との人口増加の要因における違いかと思います。

会長

豊中市だと、今後、一番大面積の敷地が出てくるのは南部地域だと思います。さらに、緑丘や旭丘の団地も今後大きなリニューアルが起こればと思いますし、千里ニュータウンの中でも、千里東町や千里中央は再開発が行われます。人口増加に向けて物事をどう動かしていけるか、という点はまさしく住宅政策が重要になると思います。

委員

先ほど「転入にあたっての情報収集」で市のホームページが一番見られている、という話がありましたが、私も転勤等で引っ越し先を探すときに公式ホームページは見えていません。重点的に見たのは口コミや住宅価格、保育園の情報です。特に保育園に関しては、近隣他市と入園のしやすさはあまり変わらないと思いました。そのため、豊中市が保育園の入園が圧倒的にしやすい市になれば、大きなインパクトを与えることができるのではないかと思います。

具体的には、認可外保育園と認可保育園で料金などに差があることが気になっています。私は子どもが乳児の時期に豊中市に転入してきましたが、一時的に認可外保育園に入って、4月から認可保育園に入りました。市内の認可保育園だと料金が一律ですが、認可外保育園は金額が園によって異なるため、料金などの比較をしながら探すのはすごく負担でした。認可保育園で唯一入れたのが、家から離れたところにあるため毎日通園に苦労している、という方もいます。

他の自治体においても認可外保育園と認可保育園で差があることは同じなので、何かしらの制約があることは想像するのですが、豊中において保護者負担がより少なくなるように制度の整理がなされるといいのではないかと思います。交通の便や、土地の価格も重要ですが、乳幼児や幼児を抱える共働き世代には、保育園探しや、通園の負担が少ないということはポイントだと思います。

委員

アンケートの回答数が令和 6 年度は前年比 2.4 倍に増加、と事務局からご説明がありましたが、何が増加の要因になったとお考えでしょうか。市公式 LINE と回答者へのマチカネポイントのプレゼントの影響が大きいのでしょうか。

事務局

定点的に分析をしているわけではないのですが、認知度が低かったことが 1 つのハードルだったのでは、と考えています。転入者アンケートは、転入の手続きの際に配られる「転入セット」と言われる封筒の中にチラシとして入れております。また、窓口にもアンケートへのご協力を呼び掛けるポスターを掲示しています。しかし、市役所のポスターや転入セット全てにお目通しいただくことは難しいという課題がありました。その対策として、市公式 LINE を利用してアンケートの周知を行いました。登録者数約 7 万人に一斉送付したので、多くの方にアンケートの存在を知っていただけたことが増加要因として 1 つ大きかったと考えています。

もう 1 つは回答者へのマチカネポイントの抽選による付与施策です。マチカネポイント施策は令和 5 年末から実施しており、市公式 LINE での情報提供は令和 6 年度に入ってからの実施だったのですが、市公式 LINE で情報提供した時の方が効果は大きかったのも、やはりポイントをつけるというよりも、認知度が一番の課題だったと分析をしています。

委員

先ほど、マチカネポイントの付与は抽選制だと事務局から説明があったのですが、回答するとポイントが漏れなくもらえる、という形の方が母数を増やすことに効果があるのではないのでしょうか。このアンケートでは様々なことがわかるので、ある程度の母数を集めることが市を変えていく上で大きなポイントになると思います。市として価値があると考えるのであれば、集め方にもさらに一ひねり加えられるように予算を割くこともご検討されてはいかがでしょうか。

会長

これは財政部門がどれだけ価値を感じてくれているのかにもよると思います。関連した事例を紹介しますと、茨木市にある子育て文化施設「おにクル」では、1 階に有料のこどもの遊び場がありますが、民間の室内遊技場だと 1 回 1,000 円以上の入場料が必要となる内容のところを 1 回 300 円という料金設定にしています。「おにクル」は市役所の指定管理者が運営していますので、差額は市費から持ち出しになっていますが、市費で負担することの根拠づけを企画部門で行っています。具体的には、「おにクル」1 階の遊び場にお子さんと親御さんが一緒に入られているところに、2 階の「子育て支援センター」にいる保健師さんが行ってヒアリングをするようにしています。それによって、子育て世代の方が窓口相談に行く前の声をつぶさに拾うことができます。これは非常に重要な子育て支援施策であると市の中で理解されているので、入場料の補填を財政部局が行っているというわけです。

転入者アンケートは、まさしく人口動態を左右するような重要なデータなので、何故ここに投資すべきかを問われたときに、企画部門が財政部門にその価値をいかに説明できるかだと思います。

委員

K G I である人口増につながる、と理解いただけるように説明してはいかがかと思います。

事務局

自治体発出の市民向けのアンケートで、ご回答いただくことに対してインセンティブをつけている事例は多くはないと考えています。この転入アンケート以外でも、当市では率先して色んなアンケートでインセンティブをつけているのですが、委員の皆さまにおっしゃっていただいている通りデータ収集と分析の重要性から行っています。

当市の広報戦略やデジタル戦略では「市民の共感」を掲げていますが、市民に共感していただくと思うと、社会が多様であればあるほど、市民一人一人がどのような意見を持っているのかを把握する必要性がより高まります。そのため、遅ればせながら積極的なアンケート調査や、特定の部局が持っているデータを集めてきて色んな見方で分析するという取組みを、まさに始めたところです。そのために、それぞれの部局が持っているデータを一元的に保管し、庁内で流通させるための基盤の構築も進めています。また、分析結果については、市民に対して B I ツールで作ったデータを市ホームページで積極的に公開しています。こうしたデータ利活用を進めるため専門職員も採用しています。市民の共感を得る政策を進めるためには、市民の考え等のデータが重要と考えております現在進めている取組みは、またどこかでご報告させていただければと思います。

先ほど委員がおっしゃっていた保育所の話について、認可外の保育所に対して市の裁量で補助を出すことは法的に禁じられているものではありません。悩ましいのは、日本全体として 0～5 歳児人口は減っており、今後も当面の間は下落する想定なので、地方では保育所が余ってきているのですが、一方で本市のような都市部では保育所が不足しているという状況になっていることです。今年度、当市において待機児童を 28 名も発生させてしまいました。昨年子育てしやすさナンバーワンを打ちだして子育て施策の充実を図っている最中で、待機児童を 28 名もだすことがどれだけ重大であるか、もう一度全部局が、ナンバーワンを打ち出す重みというものを受け止めてもらいたいと市長から強く求められています。それを受け、豊中市における保育所整備政策も大きく舵を切って、まずは、今見込まれる不足数はすべて確保していく。そのうえで、毎年度、データ等を分析し、必要に応じて、柔軟かつスピーディに対応していくということを方針としています。

「子育てしやすさ NO.1」を打ち立てて、それを期待して転入してきていただいている方をはじめ大変ご迷惑をかけており、また、こども園入園に関してはたくさんのご意見もいただいています。共感を得る政策というところでは、一つ一つの声を聞きながら、こうした基礎的な取組みをしっかりと進めるとともに、ときに思い切った政策をとっていかなければならないと思っています。

会長

豊中市で待機児童が 28 名発生していますが、住宅が増えれば子どもが増えるのは予見可能だったかと思いますので、住宅政策担当部局と子育て支援担当部局が連携できていたのか、という点が気になりました。待機児童が発生した世代の児童が小学校に上がるときには、小学校の学級数の課題が出てくるかもしれません。次期総合計画策定においては、施策間連携が図れるような記載を意識されてはと思います。

委員のお話で認可外保育園と認可保育園で料金などに差の話が出ましたが、子育てに対する費用支援やサービスの充実を求めて転入して来られた方は、より支援の手厚い市があれば転出される可

能性も高いのではないかと思います。受け身な消費者的な方々を増やすよりも、主体的に自分たちで課題解決できる層を増やす方が、持続的なまちづくりにつながるのではないかと考えます。次期総合計画策定においては、この観点も考慮した方がいいと思います。

ちなみに、先ほどアンケート分析の話題がありましたが、他市では、デジタル部門の中で、情報政策を統括するＣＩＯを戦略的に配置したり、係長クラスの職員を２年間大学院へ派遣しデータサイエンスを学ばせたりしている事例もあります。このように、職員自身が分析できるような戦略も必要だと思います。

委員

第１回審議会で「子育てしやすさ NO. 1」が抽象的すぎる、という意見がありました。アンケートを活用し、何が子育てしやすさなのかという観点で、優先順位付けにも利用してはいかがかと思います。

また、豊中市に関するホームページを見ていると「豊中は治安がいい」という言葉が頻繁に出てきます。ベースとして「安心して暮らせるまち」というイメージがあるから豊中を選んだ方も多いのではないかと思います。こういった強みを強化し、どのように安全なまちを実現しているかを見える化してＰＲにつなげるような施策もされたいのではないかと思います。

会長

経営戦略という観点だと、これが一番だという売りをいくつか作って、大きくＰＲする方がいいですね。そういう意味で、豊中市はインクルーシブ教育において日本一だと思っているのですが、あまり対外的に宣伝されていない印象です。テレビとかメディアにはよく取り上げられていますが、市側からもっと打ち出してもいいのでは、と思います。

委員

豊中市に転入された方で、特に困っているとおっしゃっていたのがごみの問題でした。他市では週１回は子育ての洋服とか段ボールを捨てることができたのですが、豊中に転入してからは２週間に１回しか捨てられなくなったので困っているそうです。

私も子育て世代でトイレットペーパーなどの生活必需品をネットで買っており、同じようにされている方は多いと思いますが、その際は大きな段ボールゴミが出るので、ごみ処理に困っている人も多いかもしれません。このように、子育てに特化したところではない部分でも子育て支援に向けた改善幅はあるのではないかと思います。

事務局

ありがとうございます。豊中市のホームページやあるいは SNS において一番見ていただいているのはごみ処理の情報で、閲覧数の 7 割を占めています。オンライン手続きもごみ処理に関連するものの利用率が一番高く、市民の方からのご意見でも、ごみ処理のページの充実を望んでおられる方が圧倒的に多いという状況です。なので、ごみ処理に対する市民ニーズが高いというのはおっしゃるとおりだと思っております。

委員

ごみの分類に関して、長時間ネットで検索されている方もいるのではないのでしょうか。現在、市ホームページなどの改善をどんどんしていただいているのは拝見しています。

会長

環境の観点では安易に捨てるのもいかなものか、という意見もあります。そのあたりを考慮しながら、市としてどう政策や施策に落とし込んでいくかということの議論が必要ですね。

委員

自治体ごとにごみの捨てやすさは異なりますが、働きやすさにも影響してくるものだと思います。

会長

豊中市は環境政策も日本で注目されているので、バランスも必要ですね。

これで案件3についての議論は終了といたします。

■「4. その他」

事務局

(連絡事項「今後の日程について」説明)

■都市経営部長挨拶

会長

以上で「第3回豊中市総合計画審議会」を終了したいと思います。ありがとうございました。

(以上)